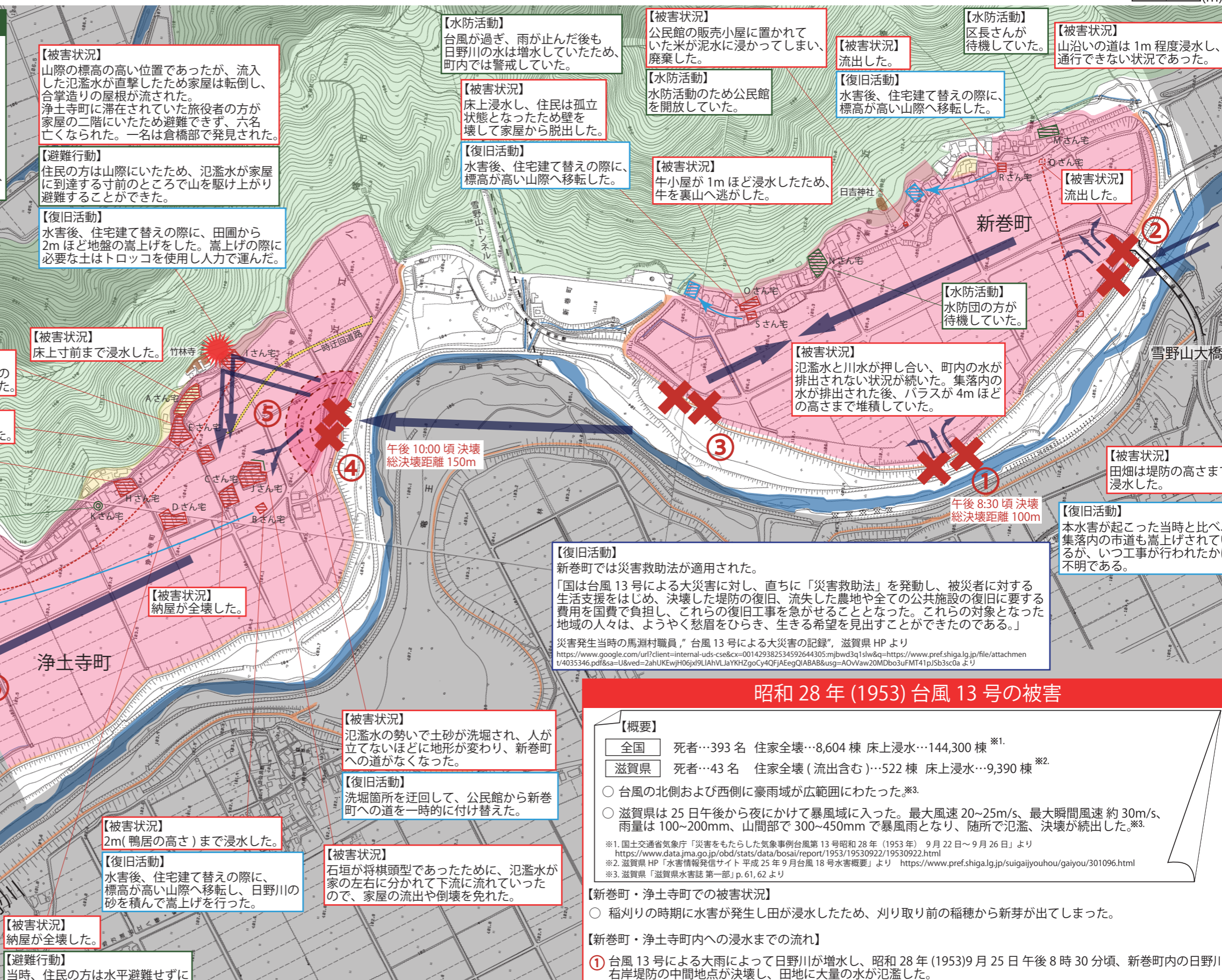


災害の避難行動

- 水害当日、消防団が日野川堤防の上で警戒していたが、増水のため足が抜けないほど堤防がぬかるんだため、集落に避難を呼びかけた。
- 浄土寺町内でも標高の低い土地の住民の方は、大雨が降り危険を感じると、牛を連れて山沿いの親戚の家に事前避難をしていた。このような避難を当時は 1 年に 1 回ほどの頻度で行っており、台風 13 号の水害当日も同様に避難した人が多かった。また、浄土寺町の山際にお住まいの方も標高のより高い家や竹林寺などに避難した。
- 住民の方と消防団が山に避難して 5 分 10 分と経たないうちに、日野川堤防が決壊し、氾濫が起きた。
- 避難した山の上から、集落の田圃一面が浸水している様子がみえた。台風が過ぎた後、雲がないほど晴れ、氾濫した水の上に月が浮かんでいた。



【被害状況】
床上 70cm ほど浸水した。

【避難行動】
冠水している 2、3 日の間、住民の方は標高の高い山際の住宅へ避難していた。その間の食料は他集落の知り合いからおにぎり等の支援を受けていた。台風の日翌日の正午には H さん宅におにぎりを用意されていた。

【復旧活動】
水害後、住宅建て替えの際に、1m ほど高上げをした。

【被害状況】
冠水している 2、3 日の間、住民の方は標高の高い山際の住宅へ避難していた。その間の食料は他集落の知り合いからおにぎり等の支援を受けていた。台風の日翌日の正午には H さん宅におにぎりを用意されていた。

【被害状況】
隠居の壁に床上 50cm の浸水跡が長年残っていた。

【被害状況】
公民館が半壊した。

【被害状況】
氾濫水に流されていた旅役者の方 1 名を K さん宅で引き上げて救出した。その後、救助を行った方は、人命救助に貢献したとして表彰された。

【被害状況】
屋根がここまで流れ着いた。

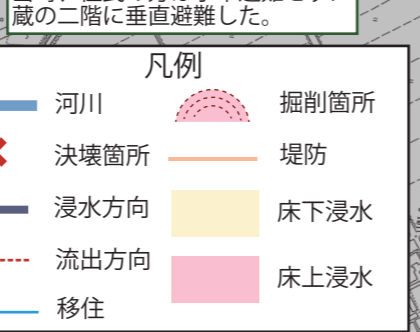
【被害状況】
納屋が全壊した。

【被害状況】
氾濫水が堤内を川のように流れていた。台風発生後、日野川が増水している間は氾濫水は排水されず、町内は浸水したままであった。下流側の町で氾濫水が排水されると、浄土寺町内の水も下流側へ流れていった。堤内に土砂が堆積し田畑は砂原となったが、随時下流へ土砂が流れていったため、新巻町ほどには堆積しなかった。

【被害状況】
亡くなられた旅役者の方がかここで一名発見された。

【被害状況】
納屋が全壊した。

【避難行動】
当時、住民の方は水平避難せずに蔵の二階に垂直避難した。



災害の復旧活動

- 本水害で床上浸水した住宅は、その後の建て替えの際に高上げを行ったが、床下浸水の住宅は高上げせず当時のままの状態である。あまりに高い高上げは住民の方の日常生活に支障が出るので、台風 13 号の被害状況に応じて必要最小限の高さに留めている。
- 水害直後の復旧では、ブルドーザーは使用できなかったが、ショベルカーやトラック、矢板が無く、手押し車で堆積物を運んだ。浸水被害を受けた田や家屋の復旧に、一年ほどかかった。

【水防活動】
台風が過ぎ、雨が止んだ後も日野川の水は増水していたため、町内では警戒していた。

【被害状況】
公民館の販売小屋に置かれていた米が泥水に浸かってしまい、廃棄した。

【水防活動】
水防活動のため公民館を開放していた。

【被害状況】
床上浸水し、住民は孤立状態となったため壁を壊して家屋から脱出した。

【復旧活動】
水害後、住宅建て替えの際に、標高が高い山際へ移転した。

【被害状況】
牛小屋が 1m ほど浸水したため、牛を裏山へ逃がした。

【被害状況】
氾濫水と川水が押し合い、町内の水が排出されない状況が続いた。集落内の水が排出された後、バラスが 4m ほどの高さまで堆積していた。

【被害状況】
田畑は堤防の高さまで浸水した。

【復旧活動】
本水害が起こった当時と比べ、集落内の市道も高上げされているが、いつ工事が行われたかは不明である。

【被害状況】
山沿いの道は 1m 程度浸水し、通行できない状況であった。

【被害状況】
流出した。

【復旧活動】
水害後、住宅建て替えの際に、標高が高い山際へ移転した。

【被害状況】
流出した。

【水防活動】
区長さんが待機していた。

【被害状況】
流出した。

【水防活動】
水防活動のため公民館を開放していた。

【復旧活動】
水害後、住宅建て替えの際に、標高が高い山際へ移転した。

【被害状況】
流出した。

【水防活動】
待機していた。

【被害状況】
流出した。

【復旧活動】
水害後、住宅建て替えの際に、1m ほど高上げをした。

【被害状況】
公民館が半壊した。

【被害状況】
氾濫水に流されていた旅役者の方 1 名を K さん宅で引き上げて救出した。その後、救助を行った方は、人命救助に貢献したとして表彰された。

【被害状況】
屋根がここまで流れ着いた。

【被害状況】
納屋が全壊した。

【被害状況】
氾濫水が堤内を川のように流れていた。台風発生後、日野川が増水している間は氾濫水は排水されず、町内は浸水したままであった。下流側の町で氾濫水が排水されると、浄土寺町内の水も下流側へ流れていった。堤内に土砂が堆積し田畑は砂原となったが、随時下流へ土砂が流れていったため、新巻町ほどには堆積しなかった。

【被害状況】
亡くなられた旅役者の方がかここで一名発見された。

【被害状況】
納屋が全壊した。

【避難行動】
当時、住民の方は水平避難せずに蔵の二階に垂直避難した。

昭和 28 年 (1953) 台風 13 号の被害

【概要】

全国	死者…393 名 住家全壊…8,604 棟 床上浸水…144,300 棟 ^{*1}
滋賀県	死者…43 名 住家全壊 (流出含む)…522 棟 床上浸水…9,390 棟 ^{*2}

- 台風の北側および西側に豪雨域が広範囲にわたった。^{*3}
- 滋賀県は 25 日午後から夜にかけて暴風域に入った。最大風速 20~25m/s、最大瞬間風速 約 30m/s、雨量は 100~200mm、山間部で 300~450mm で暴風雨となり、随所で氾濫、決壊が続出した。^{*3}

*1. 国土交通省気象庁「災害をもたらした気象事例台風第 13 号昭和 28 年 (1953 年) 9 月 22 日~9 月 26 日」より <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1953/19530922/19530922.html>
*2. 滋賀県 HP「水害情報発信サイト 平成 25 年 9 月台風 18 号水害概要」より <https://www.pref.shiga.lg.jp/suigaijyouhou/gaiyou/301096.html>
*3. 滋賀県「滋賀県水害誌 第一部」p. 61, 62 より

【新巻町・浄土寺町での被害状況】

- 稲刈りの時期に水害が発生し田が浸水したため、刈り取り前の稲穂から新芽が出てしまった。

【新巻町・浄土寺町内への浸水までの流れ】

- ① 台風 13 号による大雨によって日野川が増水し、昭和 28 年 (1953)9 月 25 日午後 8 時 30 分頃、新巻町内の日野川右岸堤防の中間地点が決壊し、田地に大量の水が氾濫した。
- ② ①の決壊箇所から大量の水が流入したため、新巻町の田地の水位が上昇した。加えて、日野川堤防に流水が直接当たっていた箇所が脆弱となっていたため、耐え切れず決壊した。
- ③ ②の決壊箇所から流入した水は堤内を下流側へと流れ、それがぶつかって堤防が決壊した。この決壊箇所からも新巻町内に氾濫水が入ってくるようになった。
- ④ ③の決壊箇所から流出した水が再度日野川堤防にぶつかり、午後 10 時頃 堤防が決壊し、浄土寺町内へと流入した。
- ⑤ ④の決壊箇所から流入した水は勢いが強かったため標高の低い方には流れず、裏山に向かって堤防に直角に進み、その裏山と周辺の家屋に直撃して跳ね返された後、標高の低い田畑の方へと流れていった。
- ⑥ 浄土寺町の堤防は閉じていないため、倉橋部、新在家、七ツ屋、馬淵西、若宮といった標高の低い方へ氾濫水が流れていった。倉橋部から、馬淵を経て、さらに北の JR 線付近まで浸水被害が及んだと考えられる。